

Desert Wind (No. 11)

Las Vegas Japanese Community Church

OCTOBER 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集: 平山未樹

『一匹の羊を救うために』(ルカ15:1-7)

LJVCC 牧師 鶴田健次

ルカによる福音書の15章は、この福音書の中でも最もよく知られているところで、三つの「たとえ話」が記されています。「百匹の羊の話」「十枚の銀貨の話」「放蕩息子の話」は、同じテーマを扱いながら、それぞれ違う強調点を持って、神の愛を伝えようとするものです。

イエス様の時代、ユダヤの社会では、取税人や罪人たちと交わることは神の前に身を汚がす行為とされていました。ですから、イエス様がそんな人々と一緒に食事をされるのを見て、ユダヤ教の指導者たちはイエス様を非難したのです。そこで、イエス様がそんな彼らに向かって、「あなたがたは神様の心を勘違いしている」といって話された「たとえ話」の一つがこの「百匹の羊のたとえ話」です。

まず、このたとえ話の中に見える第一のものは、「神様のこだわり」です。4節に、「99匹を野原に残して」とあるように、この「たとえ話」は、迷ってない99匹の羊を野原に放ったまま、いなくなった一匹を探しに行くという、この世のそらばん勘定では納得できない、一匹の羊に対する羊飼いの異常なまでの「こだわり」を強調しながら、あなたに対する神様の「こだわり」も実はそれと同じなのだイエス様は教えておられるのです。普通ならば、99匹が大文

夫なのだから、1匹くらい仕方ない思うところでしょう。あるいは、1匹がいなくなって残念だが、これからは気をつけよう、と思うところでしょう。しかし、この羊飼いは、目を離せばまた99匹の中からもっと多くの羊がいなくなるかも知れないのに、そんなことは考えもしないで、99匹を野原に置きっぱなしにして、その一匹を探しに行ったのです。だから、その一匹は、いてもいなくてもどちらでもいいような羊ではなく、その羊でなければならぬ執拗なまでの「こだわり」がこの羊飼いはありました。つまり神様は、あなたに対しても、これ程までの「こだわり」を持っておられるのだということなのです。

次に見えてくるのが、「神様の熱心」です。4節に、「いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないであろうか」とありますが、ここに、この失われた一匹の羊に対する「羊飼いの熱心」を感じます。またそのことを通して、聖書は、あなたに対する「神様の熱心」もそれと同じなのだ教えているのです。この「見つけるまで捜す」という心は、その一匹を捜すまではどんな犠牲をも厭わないという覚悟が表わされています。もし、二、三時間捜してみても見つからなかったら戻って来るというではありません。もし今日中に見つからなかったら諦めるしかないというのでもありません。たとえ、どれだけ時間がかかろうが、どんな犠牲を払おうが、その一匹が見つかるまでは絶対にあきらめない。そんな羊飼いの気持ちが伝わってきます。それがあなたに対する「神様の熱心」なのです。

第三に見えてくるものは、「神様の喜び」です。5節を見ると、「そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ」とありますが、この羊飼いは、一体どれ位の時間をかけて、この羊を捜し出したのでしょうか。「見つかるまで」という覚悟を持って捜した訳ですから、相当な時間をかけたに違いありません。足場の悪い岩の谷を下り、丘を登って捜し回る中で、羊飼いは、すり傷を負い、くたくたに疲れていたことでしょう。しかし、いなくなった羊を見つけた時、彼は、喜びのあまり疲れや体の痛みを忘れ、その羊を肩に乗せて歩き始めたのです。きっと嬉しくて嬉しくてたまらなかつたのです。それから、この羊飼いは羊を肩に乗せたまま家に帰り、まわり近所の人々を集めて、この羊のことを喜んでいきます。私たちの感覚では、ちょっと大袈裟です。しかし、この羊飼いは、周り近所の人にこの喜びを振りまかなければ気が済まないほどに嬉しかったのです。つまり、神様という方は、あなたをこのように喜び、その喜びを周りに振りまきたくなるほどにあなたのことが自慢なのです。さらに神様の喜びの極め付けがその次に続く言葉です。それは、もしあなたが、自分の罪を悔い改めて、神様のもとに帰るなら、そのあなた一人のために、千々万々の御使いたちが天において大喜びをするのだと云うわけです。なんと感謝なことでありましょうか。

証し

「集会に参加して」

末廣和美

皆さん、お元気ですか？この度導きによりお証の機会が与えられましたこと、感謝です。実は別のお証を用意していたのですが、締め切り3日前になって突然これからご紹介いたしますお証を御霊の働きによって示されました。「せっかく用意したお証が・・・」という何とも切ない思いを乗り越えて示されるまま、力強く、従順に、そして大胆にこのお証をさせていただきたいと思います。

私にとって昨年9月からのこの一年は、私の信仰生涯の上で激動の一年となりました。そして今、私のような土くれに等しい者を主が選んでくださり一大決心をするに至りました。その決心とは「献身」です。「献身」とは読んで字のごとく「身を献ずる」ということですが、私にとってこれだけは何があっても絶対に、たとえ主のお導きであろうと決してしない、はっきり言ってしたくない決心でありました。同時に私とは全く異次元の別世界の事としていつも我が身を蚊帳の外において生きてきました。そんな私が何故この様な事になったのか・・・すべてはほんの小さなひとつの集会に参加したことがきっかけでした。

ある日のこと、私は月曜日の聖書クラスに参加することを決めました。理由は以前から親交のあった伊藤幹子姉妹が日本への帰国を決められ、日本人教会のサンデースクールの奉仕に欠員が出ることでした。当時、私は所属していた別の教会でチルドレンズミニストリーの奉仕をしていたこともあって非常に興味を持ちました。しかしいくら元教会員であるとはいえ、今は外部の者が奉仕のためといえども毎週日曜日、いきなり行って働くという事に少なからず抵抗がありました。ならばまずは皆さんと主にある交わりを持つことから始めようと思い、主に祈り、求め、自分にとってある程度負担のかかる集会选择することにしました。その理由は、

継続するためには自分にとって多少困難なものの方が聖霊の働きと導きとをより豊かに感じられるのではないかという期待がひとつ。もう一つは、どうせやるなら負担のある方が成し遂げた時に達成感、充実感を味わえるのではないかという理由でした。時間的に都合が良かったことも理由の一つとして否めません。こうして月曜日の集会にコミット(誓約)して参加することを主に祈り求めることによって示されたのですが、集会に集うにしても十人十色、様々な形があると思います。私の場合にはこの「コミットして」という点がとても大きなポイントになりました。実際に参加し始める少し前、私は神様に2つの約束を致しました。

1. 「自分の事情で勉強会を休むことは絶対にしない」

2. 「やるからにはすべてにおいて全力を尽くす」

という約束です。この2つの約束のうちで主の働き(助け)が最も良く現れたのは前者の方でした。前者の約束については即ち「何よりもまず主のことを第一とする」という意味において時間の聖別がもの見事にされていきました。予習をし、暗唱聖句を覚え、聖書を読む・・・文字として書き出すと大した事もない様ですが、日々の生活と他の信仰上の活動に加えこれが毎週、毎週、一度も欠かさず一年間にわたって続けられてきたのです。主の助けがなければ決して成し得ない事でした。何かとこの一年間、一度もお休みせず続けることが出来、やれば出来るという自信も付きましたし、御言葉も(ちょっと怪しいですが)随分と身に付きました。何よりもこの神様との約束から得た一番良かったものは、とにかく全てにおいての優先順位は「神様第一」を学んだことでした。手前みそですが、シングルマザーとして結構忙しい私が自信を持ってお証することですから間違いありません。そしてこの「神様第一」が身についた頃、主は次のステップへと私を導かれます。それが2つめの集会、早天祈禱会でした。

・・・次号へ続く・・・

案内・ニュース

- ・新しい教会の場所を探しています。少なくとも3000SQFTのスペースが必要です。どうぞ、この事のために皆さんが祈り、情報を集めて下さい。主の御用が制限をされることのないよう、信仰をもって進みましょう。
- ・9月から牧会者養成クラスが始まりました。学びを始められた末廣和美姉と細田則子姉のために祈り下さい。
- ・敬愛するかよ子 Newhouse 姉が心臓のトラブルで緊急入院されました。最初の丸一日は意識不明の状態が続きましたが、皆さんの心を合わせたの祈りによって回復へと導かれています。感謝!
- ・9月29日は教会ピクニックが持たれました。たくさんの方々と楽しいひとときを過ごすことができました。

DREAMS COME TRUE

- ☞ 教会堂の建設
- ☞ 敬老ホームの設立
- ☞ 幼稚園の設立

